日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

手をつなぐ温もり-地域とともに-

あおえネットワーク 11 2026

岡山赤十字病院　患者サポートセンター





岡山日赤ＨＰ

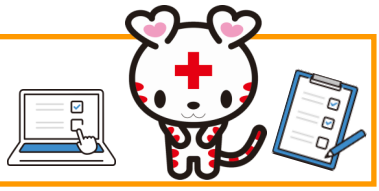
研修会・カンファレンスのご案内

※会場参加の際は、感染症予防対策にご理解・ご協力をお願いいたします。

日時・会場	名称	演題・演者等
令和8年11月4日(水) 18：40 ～ 18：55 岡山赤十字病院 南館1階 研修室	第37回 地域連携パス 連絡会	【脳卒中パスについて】 岡山赤十字病院　脳卒中科部長　岩永　健 【大腿骨頚部骨折パスについて】 岡山赤十字病院　第一整形外科医長　堀田　佳史
令和8年11月4日(水) 19：00 ～ 20：00 岡山赤十字病院 南館1階 研修室 ※今年度より開催時間が変更になっております ご注意ください	第98回 岡山赤十字病院 病診連携研修会	テーマ『心不全治療に関する最新治療と多職種連携』 ●『心不全再入院予防について』 岡山赤十字病院 循環器内科部長　福家　聡一郎 ●『当院での心不全生活指導と心不全患者を支える栄養指導』 岡山赤十字病院　心不全療養指導士　看護師　長谷川　結花 管理栄養士　小山　真奈 《生涯教育カリキュラム(1.0単位)： 73：慢性疾患・複合疾患の管理（0.5）、10：チーム医療（0.5）》

紹介予約と当日紹介に関するアンケートご協力のお願い

『外来診療予約と当日紹介についてのアンケート調査』を実施いたします。
詳細については追ってご案内いたします。
ご多忙のところ恐縮ですが、ご協力いただきますようお願いいたします。



がんサロン開催のお知らせ

日時：１１月 １０日（火） １０：００～１１：００

場所：岡山赤十字病院　南館２階　会議室１

対象：がん患者さんとそのご家族
（入院中の方、通院中の方どなたでも参加できます）

1.ミニレクチャー
『スキンケアについて』
講師：皮膚排泄ケア認定看護師　藤岡　英子

2.座談会
（内容は問いません）



あおえネットワーク４月号の内容に関する訂正

１０月号の掲載内容に一部誤りがございましたので、下記のとおり訂正させていただきます。
・宗田　大二郎　［職名］　泌尿器科医長

ご要望・ご意見等ございましたら、「診療所の先生方の声」として
地域医療連携課までお寄せください。

TEL／086-235-8555　FAX／086-235-8556
e-mail／renkei@okayama-med.jrc.or.jp

QRコードからも入力できます
ぜひご活用ください！



院内Topics ニュース&報告

令和8年度岡山赤十字病院地域連携懇親会





去る9月24日(木)、令和8年度岡山赤十字病院地域連携懇親会をホテルグランヴィア岡山にて開催しました。地域の医療機関や福祉施設などから大勢の皆様にご出席いただき、400名近い参加者を得て盛大な会となりました。

私からの開会の挨拶の後、岡山県医師会長の内田耕三郎先生にご挨拶をいただき、続いて、ぬくもりの里あおえ理事長の小林完治先生によるご挨拶と乾杯の発声により開会となりました。食事の間には、動画提示による当院の部門および診療科の紹介に引き続き、新任挨拶として、平岡第一消化器内科部長、血液内科副部長の吉岡尚徳先生・藤原悠紀先生、第二整形外科副部長の荒瀧慎也先生、牧原看護部長、梅原良介事務部長の順で、スライドを用いての自己紹介そしていただきました。その後は交流タイムとして、参加者同士での情報交換・交流を深めていただいた後、竹中皇副院長による閉会の挨拶にて、滞りなく終了いたしました。

昨年同様の大勢の参加者をお迎えし、盛会裏に終えられたことに対し、改めて職員および関係の皆様のご協力に感謝申し上げます。

院長　實金　健









熊本地震災害救護活動報告(救護班第2班)



8月17日から22日まで、救護班第2班として宇城市の避難所に派遣されました。医師1名、看護師3名、主事3名の計7名で、約120名の方が避難されている避難所において、地元の災害支援看護師や保健師の方々とともに、医療ケアを必要とする方々の支援を中心に活動いたしました。

発災から約3週間が経過し急性期の医療ニーズは落ち着いていた一方で、上下水道はまだ復旧しておらず、連日39℃近くに達する猛暑の中での避難生活は非常に厳しいものでした。移動式トイレやシャワーの利用にも暑さが伴い、脱水予防のためには十分な水分を摂っていただきたいと考える医療者の立場とは裏腹に、できるだけトイレに行かずに済むよう、 水分を控えたいとおっしゃる方のお気持ちが実感をもって理解できました。また、避難所での食事による血糖コントロールの悪化、硬いマットによる睡眠障害、先の見えない精神不安など、避難生活の長期化に伴う健康上の問題もみられました。今回の活動を通じて、災害医療は発災直後の救命だけではなく、その後の避難生活を支え、二次的な健康被害を防ぐことの重要性を実感しました。救護班任命から派遣まで十分な準備期間がなく不安もありましたが、経験豊富な隊員の皆様に支えていただき、貴重な経験をさせていただきました。実際に被災された方々と直接かかわる中で、「百聞は一見に如かず」という言葉を身をもって実感した6日間でした。最後になりましたが、活動を支えてくださった岡山県支部の皆様、留守中の診療をサポートくださった血液内科の先生方、そして不在中の子供の世話を全面的に引き受けてくれた家族に、心より感謝申し上げます。



血液内科　木村　真衣子

発行　岡山赤十字病院　広報委員会